

2 研究の実際

チェックシートについて

(2) チェックシートについて

ア チェックシートの作成

チェックシートは、本センターにおけるこれまでの特別支援教育に係る研究内容や授業における「ユニバーサルデザイン」についての先行研究を基に作成しています。作成に際しては、まず、研究に挙げられている支援例を取り出し、本研究の定める「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」「個人差への配慮」の4つの視点ごとに整理しました。次に、整理した支援の中で、学びやすい授業づくりに有効であると考えられる支援をチェックリストの項目として精選しました。そして、平成26年度特命研究委員、平成27年度個別実践研究委員とともに、これらの項目が、学校種や教科等に共通して取り入れられる支援であるかという点について、検討を重ねてチェック項目を決定しました。

このようにして作成したチェックシートを以下に示しています。

チェックシートの見方

授業づくりの流れに沿って、視点と各項目を並べています。

「環境の工夫」と「組立ての工夫」は5項目、「説明の工夫」と「個人差への配慮」は10項目に精選しています。

これまでの授業で意識している視点ごとの支援の傾向がレーダーチャートで示されます。

「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業のためのチェックシート

このチェックシートは、本センターにおけるこれまでの研究内容を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を4つ設けて、授業におけるそれらの視点に応じた支援の状況を授業者が把握することができるように作成しました。どのような視点に応じた支援を取り入れると、全ての児童生徒が分かりやすい授業につながるのかを考えることができます。ここに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

環境の工夫	1	教室の教材や掲示物、連絡事項等の配置を意図的に行っている。	
	2	授業で使う黒板には、授業に必要な連絡事項等を書かないようにしている。	
	3	学習用具の管理(整頓や忘れ物、ワークシートの保管等)についての指導を工夫している。	
	4	課題の提出についての指導を工夫している。	
	5	発表や話し合いの仕方等、授業のルールを決めている。	
組立ての工夫	6	「導入ー展開ーまとめ」等のように、基本となる授業の流れを決めて取り組んでいる。	
	7	授業の導入の段階で、その授業の学習内容や学習活動の流れを示している。	
	8	授業の導入の段階で、本時の目標(めあて)を明確にしている。	
	9	説明を聞くだけでなく、個人やペア、グループで取り組む活動等を取り入れる。	
	10	授業のまとめの段階で、学習した内容を振り返らせている。	
説明の工夫	11	スピードや抑揚を意識して話している。	
	12	指示語や曖昧な言葉を使わないようにして話すようにしている。	
	13	話す内容の要点をおさえて、短い言葉で説明している。	
	14	児童生徒の活動中に指示や説明を行わないようにしている。	
	15	「1つ目は～、2つ目は～」等のように、話す内容を列挙しながら説明している。	
	16	児童生徒の注意を引き付けてから説明するようにしている。	
	17	言葉だけでなく、具体物や図、写真等を用い、視覚的に提示している。	
	18	板書の書式を決めておいたり、チョークの色を意図的に使い分けたりしている。	
	19	学習の流れに沿った板書にしている。	
	20	説明する内容を分かりやすくするために、ICT機器を活用している。	
個人差への配慮	21	つまずきが予想される児童生徒を意識して授業の準備を行っている。	
	22	つまずきのある児童生徒の様子や関わり方等について、教師間で情報交換している。	
	23	学級全体への説明だけでは理解することが難しい児童生徒に、机間指導等で個別に対応している。	
	24	書くことが苦手な児童生徒に、ワークシートを用いたり、板書の要点だけを書き写させたりして、書く量を調整している。	
	25	読むことが苦手な児童生徒のために、漢字の振り仮名や英単語の読み方を書いている。	
	26	話すことが苦手な児童生徒に、事前に話す内容を書かせておいたり、本人が答えやすい質問をしたりしている。	
	27	注意の持続が難しい児童生徒に、説明や指示をする前に、呼名したり、言葉掛けをしたりして注意を引き付けるようにしている。	
	28	注意の持続が難しい児童生徒のために、望ましい行動や発言に対して称賛している。	
	29	習熟度や人間関係、視力等、児童生徒の実態に配慮した座席配置やグループ編成をしている。	
	30	児童生徒の興味・関心や習熟度等に合わせた活動や課題の内容を複数用意して、選択できるようにしている。	

授業における「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じたこれまでの支援の状況は左図の通りです。視点ごとの支援例や授業実践を紹介していますので、活用してください。チェックシートを定期的に変更することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組んでいくことができると考えます。

イ チェックシートの使用方法

チェックシートに記入することで、授業者のこれまでの授業における支援の傾向や、学級に在籍する児童生徒の実態に気付くことができます。そうすることにより、自身の授業に必要な「ユニバーサルデザイン」の視点に気付くことができます。

そして、チェックシートの結果を基に、教師が有効だと思われる支援を授業に取り入れることで、全ての児童生徒が学びやすい授業づくりにつながります。

チェックシートに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

チェックシートの使用方法

1. チェックシートをダウンロードします

チェックシートはトップページ又はサイトマップからダウンロードできます。

2. チェックシートに記入します

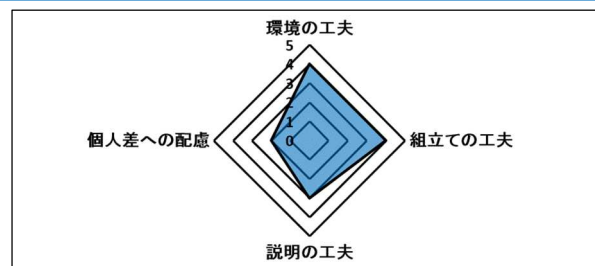
これまでの授業を振り返り、プルダウンボタンから選択します。これまでの授業で、意識している項目であれば“○”を、意識していない項目には“－”を選択してください。

「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業のためのチェックシート

このチェックシートは、本センターにおけるこれまでの研究内容を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を4つ設けて、授業におけるそれらの視点に応じた支援の状況を授業者が把握することができるように作成しました。どのような視点に応じた支援を取り入れると、全ての児童生徒が分かりやすい授業につながるのかを考えることができます。ここに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

環境の工夫	1	教室の教材や掲示物、連絡事項等の配置を意図的に行っている。	○
	2	授業で使う黒板には、授業に必要なない連絡事項等を書かないようにしている。	－
	3	学習用具の管理(整備や忘れ物、ワークシートの保管等)についての指導を工夫している。	○
	4	課題の提出についての指導を工夫している。	○
	5	発表や話し合いの仕方等、授業のルールを決めている。	－

3. レーダーチャートを基に、自身の授業の傾向や児童生徒の実態を把握します



これまでの授業で、意識している「ユニバーサルデザイン」の視点と、あまり意識していない視点がレーダーチャートから分かります。

4. チェックシートの項目や4つの視点の支援例を参考に授業づくりを行います

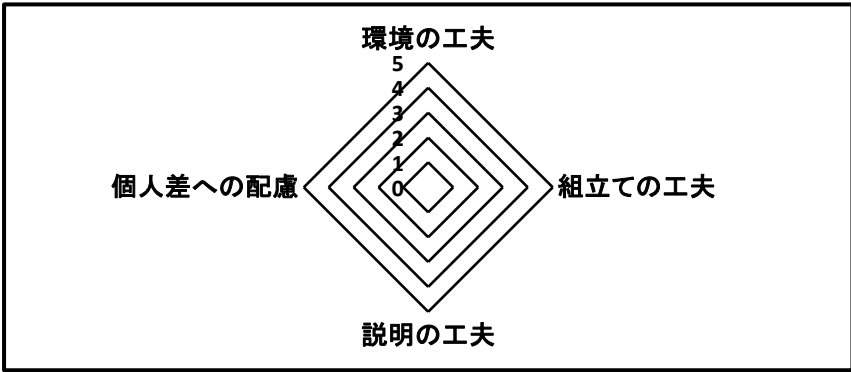
具体的な支援例を視点別にまとめています。サイトマップの“「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた具体的な支援例”や“授業実践”などを参考にして、授業づくりに取り組んでください。

チェックシートを単元や学期ごとなど定期的に使用することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組むことができると考えます。

「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業のためのチェックシート

このチェックシートは、本センターにおけるこれまでの研究内容を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を4つ設けて、授業におけるそれらの視点に応じた支援の状況を授業者が把握することができるように作成しました。どのような視点に応じた支援を取り入れると、全ての児童生徒が分かりやすい授業につながるのかを考えることができます。ここに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

環境の工夫	1	教室の教材や掲示物、連絡事項等の配置を意図的に行っている。
	2	授業で使う黒板には、授業に必要なない連絡事項等を書かないようにしている。
	3	学習用具の管理(整頓や忘れ物、ワークシートの保管等)についての指導を工夫している。
	4	課題の提出についての指導を工夫している。
	5	発表や話し合いの仕方等、授業のルールを決めている。
組立ての工夫	6	「導入—展開—まとめ」等のように、基本となる授業の流れを決めて取り組んでいる。
	7	授業の導入の段階で、その授業の学習内容や学習活動の流れを示している。
	8	授業の導入の段階で、本時の目標(めあて)を明確にしている。
	9	説明を聞くだけでなく、個人やペア、グループで取り組む活動等を取り入れる。
	10	授業のまとめの段階で、学習した内容を振り返らせている。
説明の工夫	11	スピードや抑揚を意識して話している。
	12	指示語や曖昧な言葉を使わないようにして話すようにしている。
	13	話す内容の要点をおさえて、短い言葉で説明している。
	14	児童生徒の活動中に指示や説明を行わないようにしている。
	15	「1つ目は～、2つ目は～」等のように、話す内容を列挙しながら説明している。
	16	児童生徒の注意を引き付けてから説明するようにしている。
	17	言葉だけではなく、具体物や図、写真等を用い、視覚的に提示している。
	18	板書の書式を決めておいたり、チョークの色を意図的に使い分けたりしている。
	19	学習の流れに沿った板書にしている。
	20	説明する内容を分かりやすくするために、ICT機器を利活用している。
個人差への配慮	21	つまずきが予想される児童生徒を意識して授業の準備を行っている。
	22	つまずきのある児童生徒の様子や関わり方等について、教師間で情報交換している。
	23	学級全体への説明だけでは理解することが難しい児童生徒に、机間指導等で個別に対応している。
	24	書くことが苦手な児童生徒に、ワークシートを用いたり、板書の要点だけを書き写させたりして、書く量を調整している。
	25	読むことが苦手な児童生徒のために、漢字の振り仮名や英単語の読み方を書いている。
	26	話すことが苦手な児童生徒に、事前に話す内容を書かせておいたり、本人が答えやすい質問をしたりしている。
	27	注意の持続が難しい児童生徒に、説明や指示をする前に、呼名したり、言葉掛けをしたりして注意を引き付けるようにしている。
	28	注意の持続が難しい児童生徒のために、望ましい行動や発言に対して称賛している。
	29	習熟度や人間関係、視力等、児童生徒の実態に配慮した座席配置やグループ編成をしている。
	30	児童生徒の興味・関心や習熟度等に合わせて活動や課題の内容を複数用意して、選択できるようにしている。



授業における「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じたこれまでの支援の状況は左図の通りです。
 視点ごとの支援例や授業実践を紹介していますので、活用してください。
 チェックシートを定期的を使用することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組んでいくことができると考えます。

ウ PDCAサイクルの考えを取り入れた授業改善について

チェックシートを定期的を使用することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組んでいくことができると考えます。そこで、本研究では、全ての児童生徒が学びやすい授業づくりに向けて授業改善や教師の授業力向上を目指して、PDCAサイクルの考えを基にチェックシートの有効な使用方法について探りました。

PDCAサイクルについては、平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」において、「PDCAサイクルは、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返されながら展開されるものである。学習評価を通じて、教師が授業の中で児童生徒の反応を見ながら学習指導の在り方を見直したり、一連の授業の中で個に応じた指導を図る時間を設けたりすることや、学校における教育活動を組織として改善したりしていくこと等が求められる。」と述べられています。つまり、授業改善と教師の授業力向上を図るためには、授業の成果と課題を明らかにして、それを基にした授業実践等を繰り返していくことが大切であると考えます。

本研究におけるPDCAサイクルについては、図3のように考え、単元や学期ごとなど定期的にチェックシートを使用することで授業改善に継続的に取り組みました。P(Plan)では、授業者は授業前にチェックシートに記入することで、これまでの授業における支援の傾向を把握します。また、個別に配慮が必要な児童生徒の実態を把握します。そして、チェックシートの結果から、これまでの授業であまり意識していなかった視点の支援や、実践する授業で意識したい支援、学習につまずきが予想される児童生徒に対して必要な支援を考えて、授業案を作成します。D(Do)では、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業を実践します。C(Check)では、授業後の児童生徒アンケートや授業者アンケート等からチェックシートの結果を基にして授業者が取り入れた支援が児童生徒にとって有効であったかを評価します。そして、取り入れた支援についての成果と課題をまとめます。A(Action)では、まとめた成果と課題を基に、新たに取り入れたい支援を考えるなど今後の授業での改善点を検討します。

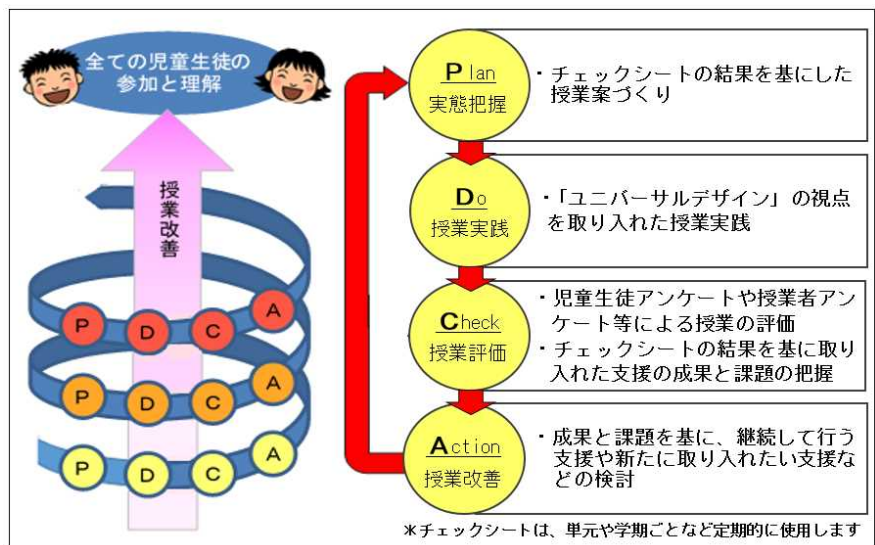


図3 PDCAサイクルの考えを取り入れた授業改善の流れ

このように、PDCAサイクルの考えを取り入れることで、授業が改善され、全ての児童生徒にとって学びやすい授業につながると考えます。

《引用文献》

- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」 平成22年3月